

〈はじめに〉

田園調布学園では、中等部3年生の「公民」の授業で毎回「5分間ニュースキャスター」という取り組みをおこなっています。ここでは、新聞記事のなかから自分の興味のあるニュースを取り上げ、それについて自分の意見を発表します。

2012年の新聞の発行部数は約4777万部（注1）でした。(1)□□□□□□□□が急速に発達したため、新聞の発行部数は減っています。日本の新聞社は1995年にはじめて電子版（(1)□□□□□□□□を使った報道）を始めました。社会で起きていることを知る上で大きな役割を持っている新聞について、みていきましょう。

日本の新聞の始まりは、江戸時代の「瓦版」と言われています。売り子が町なかで読み上げながら売っていたので、「読売」と呼ばれていました。1615年の大坂夏の陣を伝えた「大坂安部之合戦之図」が、最も古い瓦版とされています。瓦版にはさまざまな出来事が書かれました。敵討ちや珍談奇談（珍しい話や不思議な話）などのほか、地震や火災など災害のニュースをいち早く伝えた瓦版は、時には幕府の取締りを受けながらも、庶民の間で広く読まれていました。

1853年、アメリカ東インド艦隊司令長官のペリーが「黒船」4隻を率いて浦賀沖に現れました。翌年、幕府は日米和親条約を結び、開国しました。日米修好通商条約によって貿易がはじまると、外国の商人が日本にやってくるようになりました。開国と攘夷（外国人を追い払う）をめぐる国内は揺れ、さまざまな事件が起きました。

こうした中で、海外のようすを知らせるものとして「新聞」が発刊されていきます。1862年に蕃書調所（江戸幕府のなかで、洋学の研究と教育をおこなった機関）が出した『官板 バタビヤ新聞』は、インドネシアのバタビヤ（現在のジャカルタ）にあったオランダ総督府が発行した新聞を、訳してまとめたものでした。このほかに、ジョセフ・ヒコ（本名 浜田彦蔵 ジョセフ・ヒコはアメリカでの呼び名）が発行した『海外新聞』が有名です。ヒコは播磨国（現在の兵庫県）の農民の子でしたが、江戸見物の帰りに乗っていた船が嵐によって遭難してしまい、アメリカ船に救われました。ヒコはアメリカで生活する間にキリスト教の洗礼を受け、アメリカ国民となって日本に戻りました。帰国後、多くの日本人が熱心に外国のニュースを求めていることを知ったヒコは、それに応えようとして『海外新聞』を創刊しました。

1868年の(2)□□戦争のさなか、幕府の家臣であった柳川春三（1832～1870）は『中外新聞』を創刊しました。『中外新聞』は、その名のとおり国の「中」と「外」のことを伝え、外国の新聞記事を訳して紹介するだけでなく、人々に広く知らせようと国内のニュースも記事にしました。また、事件を報道するにとどまらず、新政府への意見も述べる「論説」も載せていました。この新聞は、日本

ではじめての本格的な新聞です。『中外新聞』は、上野での戦いを速報した『別段中外新聞』も発行しました。これが「号外」(大きな事件があったとき、臨時に発行する新聞)のはじまりです。『中外新聞』には多くの読者がいましたが、幕府に近い立場を取って新政府を批判する内容が多かったため、新政府が江戸に入ってくると、新聞の発行は禁止されました。『中外新聞』のほかにも、幕府に仕えていた福地源一郎(1841～1906)の『江湖新聞』など、幕府と関係のある人々によって江戸では多くの新聞が発行されていましたが、新政府はこれらも次々と発行を禁止していき

ました。
1870年代のはじめには、新たな新聞が生まれました。イギリス人のブラックが発行した『日新真事誌』(1872年創刊)は、社会についての意見を載せたところに特徴がありました。横浜、神戸、長崎などの外国人居留地(日本の国内で外国人の居住や営業が認められた地域)では日本の主権がおよばないため、そこで外国人が発行する新聞は自由に考えが述べられました。政府は外国人の日本社会に対する批判を気にしており、この新聞に書かれたことが政策に取り入れられることもありましたが、しかし、『日新真事誌』が1874年に板垣退助(1837～1919)らによる(3)□□□□設立建白書を書けると、政府はがらりと姿勢を変えました。この後、さまざまな新聞が建白書の内容をめぐって論じたことで、人々は政治の世界で起きていることを知り、関心を持つようになりました。建白書の掲載は(4)□□□□運動に火をつけ、新聞は世の中に対して人々が抱える要求や不満をうたえるものになっていきました。政府は新聞が自分たちを批判することを嫌がり、取締りを強めました。この頃は征韓論がさかんで、政府に対する士族の不満がくすぶっていました。政府は1875年に新聞紙条例などを公布し、批判するものを取締りました。

「筆禍」という言葉があります。自分が書いて発表した文章のために、災難を受けることです。1875年からの5年間で200人近い人々が罪に問われ、新聞紙条例などの法律による筆禍は「文字の獄」と呼ばれました。政府は人々の間に生まれかけていた言論の芽を、無理やりつみとってしまったのです。新聞に関わる人々は「筆」を振るいにくくなったので、「舌」を使い演説会でさかんに自らの考えを主張するようになりました。「筆鋒(文章の勢い)」を「舌鋒(するどい弁舌)」に変え、言論によって政治に意見しようとする人々と、それをおさえこもうとする政府との間でのぶつかり合いが続きました。

(5)□□□□に率いられた士族たちが西南戦争で敗れると、いよいよ言論の力で権利を勝ち取っていかうという動きが強くなりました。1881年、新聞は薩摩藩出身の政府の有力政治家が、同じ薩摩藩出身の政商(政治家と結びついてもうける商人)にきわめて安い値段で開拓使の官有物を払い下げようとしていたことを、厳しく批判

しました。人々はこの払い下げ事件に怒り、政府を追及する動きが全国に広がりました。ついに政府は払い下げの中止を決め、1890年に国会を開くことを約束しました。この時、政府は大隈重信(1838～1922)を世論の動きに関係していたと見て、政府から追い出しました。大隈は翌年(6)□□□□党をつくり、『郵便報知新聞』(1872年創刊)を手に入れ、この新聞を通してイギリスのような議院内閣制をめざすべきだと世にうたえました。一方、板垣退助は自由党の主張を伝えるため、『自由新聞』を創刊しました。この新聞には中江兆民(1847～1901)など、よく名の知られた人々が加わっていました。1880年代の前半、新聞の多くは政党の主張を伝える「政論新聞」といわれるようになりました。そのような新聞を「大新聞」といいます。身近な娯楽に関する話題などを中身とした「小新聞」よりも縦横の長さが大きいことからこう呼ばれ、小新聞より高い値段で売られていました。政党に関わりの深い新聞があった一方で、政党とは距離をおいた立場から政治について論じる新聞も発刊されました。1882年に福沢諭吉(1834～1901)が創刊した『時事新報』は、特定の主張や政党にかたよらない「不偏不党」をかかげ、なるべく多くのいろいろな意見を述べようとしていました。

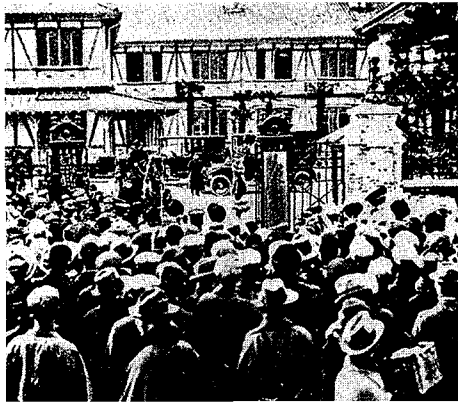
政府は(4)□□□□運動の高まりに対して、新聞紙条例をさらに厳しい内容に変えて取締りを強めました。一方、自由党と(6)□□□□党はお互いの悪いところを取り上げて新聞で攻撃しあったり、運動が激しくなり政府の弾圧を恐れた政党の指導者が解党を決めたりしたので、1880年代半ばに運動の勢いは一時衰えました。しかし、国会の開設の時期が近づくと、民権派の間で「小さな違いは捨てて、大事なところで団結しよう」という動きがおこり、地租改正や言論・集会の自由、不平等条約の改正を主張して、再び運動は盛りあがりました。国会開設に先立って発布された大日本帝国憲法では言論・出版などの自由が認められたものの、実際には新聞の活動には多くの足かせがはめられていました。

明治時代の2つの対外戦争は、新聞を大きく変えました。戦争のたびに新聞を読む人が増え、「戦争は部数を伸ばす」と言われたのです。1894年に起きた日清戦争では、『時事新報』の社説(新聞社の意見)が「この戦争は文明と野蛮の戦いである」と述べるなど、新聞が政府を強く支持しました。新聞各社は100人をこえる多くの記者を戦地に送り、号外を出して報道競争を繰り広げ、国民の戦う気持ちをあおりました。勝利が伝えられるたびに国民は喜び、不利な情報は日本軍の勇ましさを伝える武勇伝や美談に変えられました。翌年の講和条約に対してロシア・ドイツ・(7)□□□□が遼東半島の返還を日本に求めると、日本はこれを受け入れました。多くの新聞は「日本にはまだ力が足りないの、今は我慢して力を蓄えよう」と、中国の故事(昔から伝わっている話)を引いて「臥薪嘗胆」(注2)を主張し、ロシアへの敵意をあおりました。

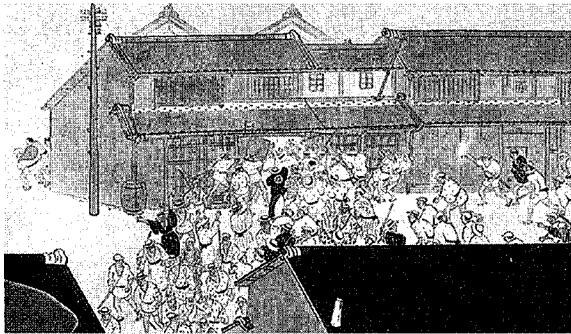
日清戦争後、日本は南下政策を進めるロシアと対立し、1902年にイギリスと同盟を結びました。新聞の間では、ロシアに対して開戦論と非戦論の両方の意見が論じられました。当時、多くの人に読まれていた『万朝報』(1892年創刊)は、非戦論の代表的な新聞でした。1903年6月、『東京朝日新聞』(1888年創刊)が「ロシアと戦うべきだ」という東京帝国大学(現在の東京大学)の教授たちの意見を載せると、しだいに^{ふんいき}雰囲気が変わっていきました。多くの新聞が開戦すべきだという意見に変わり、『万朝報』も開戦に変わりました。最後まで戦争に反対した新聞は、ごくわずかでした。戦争が始まると、新聞は号外を発行し、競うように戦いのようすを伝えました。新聞は戦争の間、さまざまな記事や勝利を祝う祝賀会などによって国民の気分を盛り上げ、講和の内容ではロシアが受け入れられないような要求を社説として載せました。多くのものを得られるだろうと期待した民衆は、1905年に結ばれた講和条約の内容に不満を持ち、「^{ひびや}日比谷焼打ち事件」を起こしました。

この戦争で大きく部数を伸ばした新聞に『大阪朝日新聞』(1879年創刊)や『大阪毎日新聞』(1888年創刊)があります。明治時代の後半になると、小新聞と大新聞の区別がしだいに無くなり、両方の特徴が合わさった新聞となっていきました。新聞の経営は、多くの読者がいないと成り立ちません。経営を安定させるためには、読者が好む話題で紙面を作る必要がありました。新聞にとって、戦争の報道は読者を増やすよい機会として使われました。

1912年、第2次西園寺公望内閣が予算案をめぐって陸軍と意見が合わずに総辞職すると、その後に長州藩出身で陸軍と関わりの深い桂太郎(1847~1913)が首相につきました。新聞は尾崎行雄(1858~1954)や犬養毅(1855~1932)など「(8)□□□□□」と呼ばれた政治家たちや民衆と一緒になって抗議の声を上げ、「閥族打破・憲政擁護」を唱える第1次護憲運動が起こりました。1913年2月、多くの民衆が国会議事堂を取り囲み、桂内閣は辞めました。東京帝国大学教授の吉野作造(1878~1933)は「(9)□□主義」を唱え、普通選挙制による政党内閣の実現を主張しました。このように、大正時代に入ると、新聞は政治家や学者、民衆とともに「大正デモクラシー」を盛り上げていく役目を果たしました。



国会議事堂を取り囲む民衆 (1913年2月)



(10)□□□のようす

第1次世界大戦が始まると、輸出が増えて日本の景気はよくなりましたが、物価が上がり、人々の暮らしは苦しくなりました。なかでも米の値上がりは激しく、1918年7月、米問屋が米を買占めて値段が急に上がったため、富山県で民衆が米問屋を襲う事件が起きました。(10)□□□は全国に広がり、大変な騒ぎとなりました。政府は(10)□□□に関する報道をすべて禁止して取締まりましたが、新聞は寺内正毅内閣の責任を厳しく追及しました。新聞の力をそぐため、政府は記事の内容が法律に違反したとして、『大阪朝日新聞』をつぶしにかかりました。ところがかえって内閣は辞めるべきだという世論が高まり、ついに寺内内閣は総辞職して原敬(1856~1921)を首相とする政党内閣が生まれました。

新聞は「今すぐ普通選挙を実現するべきだ」と主張し、国民の間で期待と運動が高まりましたが、原内閣はその実現に向けては消極的で、選挙権の制限をゆるめただけでした。1921年に原敬が暗殺されると、その後、政党出身でない人物が首相となることが続いたため、1924年に3つの政党が協力して第2次護憲運動を起しました。総選挙の結果生まれた加藤高明内閣は普通選挙法を成立させ、有権者は一挙に4倍に増えました。

大正時代の前半には新聞、後半には雑誌や(11)□□□などのマス・メディア(大衆に向けて情報を伝える手段)が大きく発達しました。教育が普及し、会社員や公務員など新聞を読む人々が増え、発行部数が100万部を超える新聞が現れました。新聞は強力なマス・メディアとして民衆運動を盛り上げ、大正デモクラシーが目指した普通選挙制と政党内閣の実現に力を発揮しました。

新聞は軍縮問題にも関わりました。国民は増え続ける軍事費によって生活が苦しくなり、軍縮に賛成していました。1921年に開かれたワシントン会議では、太平洋の平和や中国に関する事、各国が持つ軍艦の割合などが決められ、アジア・太平洋地域で戦争がおこるのを防ぎ、列強の利害を調整したワシントン体制ができあがり

14 田園調布①

ました。日本はワシントン体制のなかで協調外交をおこない、軍の反対を押さえながら軍縮を進めました。しかし、1920年代の後半、田中義一内閣は満州で日本が持っている権利や利益を力で守ることを決め、中華民国に対して強い姿勢で臨みました。田中内閣の後の浜口雄幸内閣は中華民国との関係をよくしようと試み、ロンドン軍縮条約に調印して協調外交を続けようとしたしましたが、1930年5月、浜口首相は東京駅で銃撃されて命を落しました。

1931年、奉天郊外の柳条湖で鉄道の線路が爆破される事件が起こりました。関東軍はこれを中国軍のしわざだとして軍事行動をおこし、(12)□□□□がはじまりました。政府は事態を大きくしない方針を取ろうとしたましたが、新聞は日本軍の行動を支持する報道を流し続けました。1932年、上海で3名の兵士が戦死すると、自分の身を犠牲にして鉄条網を壊したという「肉弾三勇士」の話は新聞はこぞって書きたてました。国民は熱狂し戦争に駆り立てられていきました。はじめ(12)□□□□に反対していた新聞も、軍の行動を支持するようになり変わりました。新聞は(12)□□□□に続く日中戦争やアジア太平洋戦争になってもそのような役割を続け、軍へ協力しながら国民の気持ちを戦争に向ってあおりたてました。1945年に戦争に敗れたことで、ようやく新聞は自らが持つ社会的な使命を改めて自覚し、再出発することになりました。

〈おわりに〉

新聞は、われわれが関心を持つべきことや考えるべきことを気づかせてくれます。新聞のようにマス・コミュニケーションが持つ力はとても大きいので、立法・司法・行政と並ぶ「第4の権力」と呼ばれることがあります。高等部3年生が1日校外学習で訪れる横浜には「日本新聞博物館」があり、当時の新聞を見ながら学ぶことができます。みなさんも新聞を通して、社会で起きているさまざまなことを知り、考えてみませんか。

注1 約4777万部…日本新聞協会調べ。朝刊と夕刊を合わせて1部と数える。
注2 臥薪嘗胆…かたきを討とうとして、苦心や苦勞を重ねること。古代の中国で、呉の国の王が薪の上に寝て、越の国の王は苦い肝をなめながら、苦しさに耐えて屈辱を忘れまいとした話。

おもな参考文献・ホームページ

『日本新聞通史』春原 昭彦 新泉社
『講座 現代ジャーナリズムⅠ 歴史』城戸 又一 編集代表 時事通信社
『明治・大正のジャーナリズム』桂 敬一 岩波書店
『日本の近代14 メディアと権力』佐々木 隆 中央公論社
『太平洋戦争と新聞』前坂 俊之 講談社
日本新聞協会 <http://www.pressnet.or.jp/>
文章中の写真、絵は『最新日本史図表』（第一学習社）から引用しました。

問1 文章中の空欄(1)～(12)に入る語句を書きなさい。□内に1字とする。

問2 下線部㊸について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

- (1) このときの戦いで滅ぼされた大名の名字を、漢字で答えなさい。
- (2) 江戸幕府は、この年に諸大名が守るべき決まりを定めました。これを漢字で答えなさい。

問3 下線部㊹について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

- (1) 江戸時代には、さまざまな自然災害が起こりました。1707年に大噴火を起こし、江戸の町にたくさんの火山灰をもたらした山の名前を、漢字で答えなさい。
- (2) 1923年におきた災害によって、東京にあった新聞社はほとんどが壊れて焼けてしまいました。この災害の名を漢字で答えなさい。

問4 下線部㊺について、さまざまな時代の貿易に関する次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 平安時代の末頃、平氏はある国との間で貿易をさかんにおこないました。この国を次のなかから選び、記号で答えなさい。
ア. 漢 イ. 隋 ウ. 唐 エ. 宋 オ. 元

(2) 室町時代、足利義満は明との間で貿易を始めました。日明貿易で栄えた港を次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア. 新潟 イ. 下田 ウ. 下関 エ. 博多 オ. 長崎

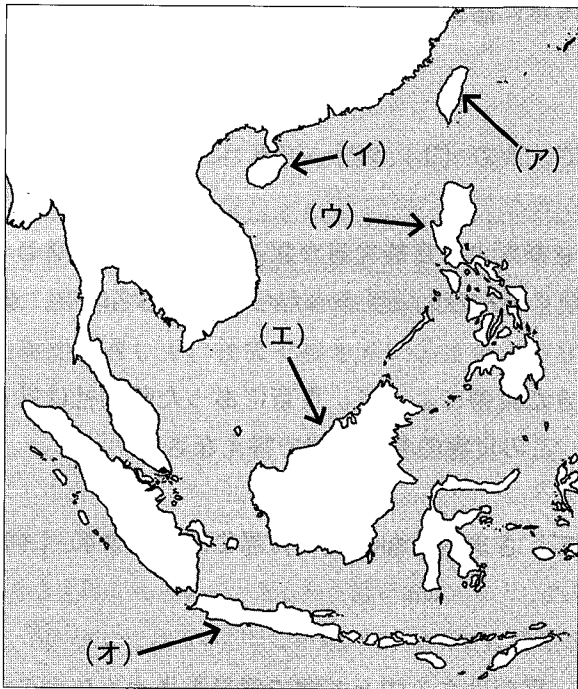
(3) 16世紀の半ば頃、ポルトガル人やスペイン人などヨーロッパの人々が日本にやってきて、貿易を始めました。これらの人々との貿易を何と呼ぶか、漢字で答えなさい。

(4) 下線部③の頃の貿易で、日本からの輸出が生糸について2番目に多かった産物を次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア. 茶 イ. 木綿^{もめん} ウ. 銅 エ. 硫黄^{いおう} オ. 刀剣

問5 下線部②について、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) インドネシアのバタビヤ(ジャカルタ)がある島を、地図の(ア)～(オ)のなかから選び、記号で答えなさい



(2) オランダをはじめ、ヨーロッパの国々がアジア各地を植民地とした理由を説明しなさい。

(3) 日本はインドネシアから多くのものを輸入しています。2012年、日本がおもに輸入しているものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア. 半導体 イ. 原油 ウ. 自動車 エ. 綿花 オ. 鉄鉱石

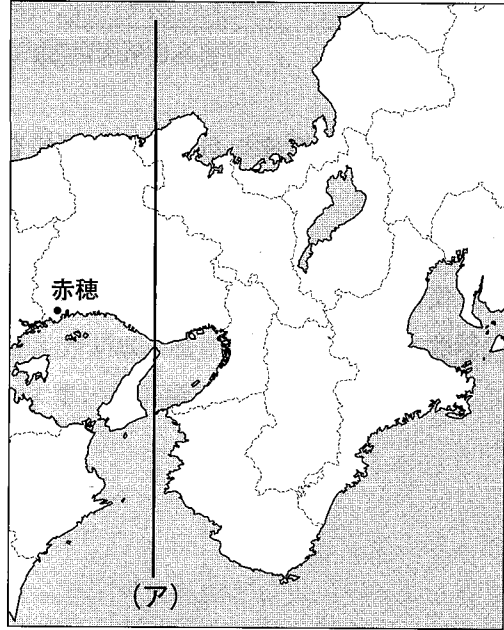
(4) 日本は東南アジアの国々から多くの水産物を輸入しています。次の表は、日本が輸入しているある水産物の輸入額と割合を示したものです。この水産物は2013年に病気がはやったため、値段が上がりました。この水産物を答えなさい。

2011年	億円	%
ベ ト ナ ム	318	17.2
イ ン ド ネ シ ア	305	16.4
タ イ	281	15.1
イ ン ド	256	13.8
中 国	120	6.5
カ ナ ダ	96	5.2
世 界 計	1,854	100.0

生鮮・冷凍のもの (『地理統計要覧 2013 年度版』二宮書店)

問6 下線部④について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 地図中(ア)の経線は、日本標準時子午線^{しこせん}です。この経線が通っている場所の組み合わせとして正しいものを次のなかから選び、記号で答えなさい。



ア. 神戸-小豆島^{しょうどしま} イ. 明石-淡路島^{あわじしま} ウ. 姫路-佐渡島^{さどがしま} エ. 尼崎-八丈島^{はちじょうじま}

(2) 兵庫県は地場産業がさかんです。赤穂^{あこう}で多く生産されるものを次のなかから選
び、記号で答えなさい。

- ア. 塩 イ. 線香^{せんこう} ウ. そろばん エ. そうめん オ. マッチ

問7 下線部㉔の新聞は、政府が一部の藩の出身者でしかつくられていないことを批
判しました。このような政府は当事何と呼ばれましたか、漢字で答えなさい。

問8 下線部㉕について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 田中正造はある銅山で起きた鉱毒^{こうどく}事件について、国会やさまざまな場所で演説
をおこない、解決をうったえました。この銅山がある県と、銅山の名前をそれぞ
れ漢字で答えなさい。

(2) この銅山がある県では、次の表で示した農産物の生産量が全国第1位となっ
ています。この農産物を答えなさい。

2011年			生産量(t)	全国比(%)
(1)	県		29,300	16.5
福	岡	県	18,900	10.7
熊	本	県	12,800	7.2
長	崎	県	11,700	6.6
全	国	計	177,300	100.0

(『日本国勢図会 2013/2014』矢野恒太記念会)

問9 下線部㉖の仕組みについて、次の空欄にあてはまる語句を選び、記号で答えな
さい。

日本国憲法 第66条

③内閣は、行政権の行使について、国会に対し□□して責任を負ふ。

- ア. 共同 イ. 信託^{しんたく} ウ. 信任^{しんにん} エ. 協力 オ. 連帯

問10 下線部㉗について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 福沢諭吉は「演説」を重んじ、自ら創設した学校に演説館を建てました。この
学校の名前を、漢字4字で答えなさい。



三田演説館

(2) 1872年、福沢諭吉が学問の大切さについて著^{あらわ}した書物の名前を答えなさい。

問11 下線部㉘について、次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の大日本帝国憲法と日本国憲法の条文で、空欄(ア)～(ウ)に入る語句を
漢字で答えなさい。

大日本帝国憲法 第29条

日本臣民ハ(ア)□□ノ範囲内ニ於テ言論著作^{いんごう}印行集会^{および}及結社ノ自由ヲ有ス
※印行 印刷して発行すること

日本国憲法 第21条

- ①集会、結社及び言論、出版その他一切の(イ)□□の自由は、これを保障する。
②検閲^{けんえつ}は、これをしてはならない。(ウ)□□の秘密は、これを侵してはならない。

(2) 現代の人権の考え方では、国民は政府に対して積極的に情報の提供を求める権
利があるとしています。この権利を答えなさい。

問1	(1)								(2)			(3)			
	(4)					(5)					(6)				
	(7)					(8)						(9)			
	(10)					(11)				(12)					

問2	(1)		氏	(2)		問3	(1)			(2)	
----	-----	--	---	-----	--	----	-----	--	--	-----	--

問4	(1)		(2)		(3)		貿易	(4)		()
----	-----	--	-----	--	-----	--	----	-----	--	-----

問5	(1)		(2)												
	(3)		(4)												

問6	(1)		(2)		問7		政府
----	-----	--	-----	--	----	--	----

問8	(1)		県		銅山	(2)		問9	
----	-----	--	---	--	----	-----	--	----	--

問10	(1)				(2)										
-----	-----	--	--	--	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問11	(1)	ア			イ			ウ		(2)		権利	()
-----	-----	---	--	--	---	--	--	---	--	-----	--	----	-----

問12															
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問13				
-----	--	--	--	--

問14	(1)	①		(2)					化が進むことをおさえるため。	③		④	
	(2)				(3)			(4)					

問15															
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

()

受 験 番 号	氏 名	得 点